

## ほほえみ 第31号



ゴールデン・ウィークはすっきりしない天気でしたが、中旬は五月晴れでした。6月が近づくと、どうも曇りの日が多いのですが、今年の梅雨や夏の暑さはどうなるでしょうか。気候の変わり目で、体調を崩しやすい時期でもありますので、小まめに衣服を調節したり、消化のよいものを摂るといった注意が必要かもしれませんね。

## 手足の荒れ（手足症候群を中心に）

抗がん剤と言うと、嘔吐や食欲不振といった消化器症状、白血球減少や血小板減少のような骨髄抑制、そして、脱毛といった副作用がよく知られていますが、皮膚への副作用も稀ではありません。そこで、今回は、手足の荒れ（手足症候群）についてまとめてみようと思います。

抗がん剤の副作用に、手足の荒れ（手足症候群）というものがあります。手足の皮膚、特に手のひらや、足の裏の皮膚が、乾燥・亀裂などようになって荒れるのですが、症状が進むと痛みが出たりします。5FU系の薬剤や、分子標的薬のセツキシマブ、パニツムマブでも指先などの亀裂が生じますし、2013年5月に発売となったレゴラフェニブでも手足症候群が生じます。一般には保湿や、長時間歩かないなど、刺激を抑えるなどの対処が必要ですが、薬剤によって、対処法などで異なる部分もあります。

5FU系の薬剤では、5FUそのもの（注射、点滴）でも生じうるのですが、内服の抗がん剤（ゼローダ：一般名カペシタビンや、ティーエスワンなど）で生じることが多いです。最初は、皮膚がテカテカしたような感じになりますが、角質でカサカサと硬くなって、さらには亀裂が生じて痛みが出たりします。5FU系の抗がん剤による手足の荒れの特徴は比較的、手足の広い範囲に起こることです。対処法は、亀裂・痛みのような際には、薬剤の休薬となります。軟膏やビタミン剤は、いろいろと試みられてきたのですが、実はこれといって有効な薬剤がないのが現状です。保湿剤や乾燥を防ぐようなスキンケアが行われることが多いのですが、症状が強くなった場合には、休まざるを得ないようです。

抗EGFR薬と言われる分子標的薬（セツキシマブ、パニツムマブ）では、投与開始当初は、にきび様の皮疹が出ますが、徐々に皮膚の乾燥による症状が出現し、指先の乾燥から亀裂が生じます。この場合は、軟膏の投与が有効です。通常は、保湿剤とステロイド軟膏が併用されることが多いのですが、指先の痛みなどが強いと休薬が必要となってきます。また、経験的には、ミノマイシンという抗生剤を飲むことで皮疹が軽減できるようです。

レゴラフェニブのようなキナーゼ阻害剤でも手足症候群が起こりますが、5FU系薬剤のように、手のひら、足の裏全体の症状ではなく、赤く痛みを伴った皮疹から、硬くタコのようになったり、症状が進むと水泡が出来たりします。

予防的な処置として、投与開始前に角質を柔らかくするような軟膏を塗って、スキンケアを始めた後から内服を開始するとか、保湿剤、ステロイドの投与を行います。刺激を避けることも重要とされ、手や足にマメができたりするような、力が加わる動作は勿論、雑巾を強く絞ったりするのも、長時間（職業的に）包丁を握るのも避けた方が良いでしょう、などと言われており、なかなか神経を使われるのでは、ないでしょうか。勿論、症状が強くと日常生活に支障が出るような場合には、適切な休薬、減量が必要になってきます。

スタッフに、疑問点などお気軽にご相談いただければと、存じます。



5FU系の内服による



キナーゼ阻害剤による

## ミラーニューロンの発見

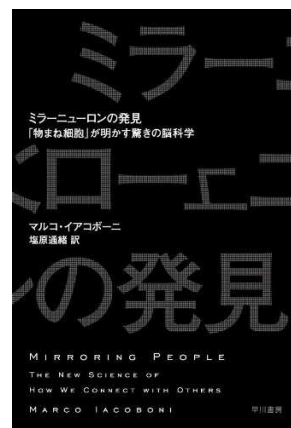
SF小説の文庫の方がお馴染みの(?)、ハヤカワのノンフィクション文庫に入っている本です。SFのような話ですが、科学的な本当の話が載っている本です。

ミラーニューロンというのは、少なくともサル以上の高等哺乳類の認識に関わる重要なニューロンとされており、例えばジャンケンの、ゲー、チョキ、パーを認識するニューロンは別々にあり、親指と人差し指、親指と中指というふうになんかちよつとした違いも、各々別のニューロンが識別しているようです。簡単に言うと、現象として知覚されたものは、脳内でミラーニューロンの興奮という形で、写しとられて、初めて認識されるのですね。あたかも鏡のようなので、ミラーニューロンと名前がついています。

一歩進んで、認識から、相手の意図も推測することもできます。コップを握り、口元に運ぶ動作を見ると、何かを飲むと推測して、飲むことに関わるニューロンが活性化するという風に、単に認識に留まらず、事象を構成するように、次々に脳が活性化するというすばらしい仕組みがあります。

学習したりはもちろん、感情にもかかわりますし、自己認識、自己と他者の区別にも関与します。逆に、ミラーニューロンが不調だと、認識が難しくなり、仮説としては、自閉症の場合のように、相手の服装や帽子などには注目しても、表情は認識できないといったことまで、ミラーニューロンの働きで説明できるのではないかとされています。

さらには、人が商品を買ったり、選挙で投票するといったような、判断に関わることも、ミラーニューロンが関与するという事例もあるということで、神経科学が日常生活の様々な事象を説明できるような時代が、遠くない将来に来そうだと予感させる本でもありました。



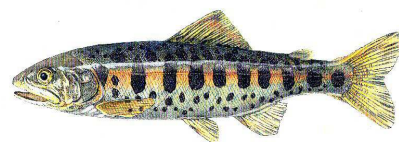
## 久しぶりにヤマメを釣りました

一時期、溪流釣りをしていた時期がありました。しばらく釣りに出かけていませんでした。上流部の溪流が良いのですが、地震が来たら危ないからという理由で、今回は旧大迫町の稗貫川に行ってきました。田んぼの脇の、溪流というよりは里川といった感じのところですが、小さいヤマメが7-8匹と、大き目のウグイが一匹釣れました。

子供はバケツの中の子ヤマメをつかみ取りたくて、ずーっとバシャバシャしていました。流石にヤマメは小さくてもパーマークがあって綺麗ですし、幼稚園児には簡単に捕まらないくらいすばらしいですね。

以前は、持ち帰ったことも多いのですが(釣れなかった時も多いですが)、放射能はどうなのかなとやや心配で、全てリリースしてきました。まだ、大きなヤマメはそんなにいないようですね。

久しぶりに仕掛けを作ったのですが、0.25号の糸で、4号の針を結ぶのは難しかったですね。結び方も最初は忘れていて、苦労しました。



## MEMO

### 6月のがん化学療法科の予定

- |       |                                                                            |
|-------|----------------------------------------------------------------------------|
| 6月14日 | 柴田教授外来                                                                     |
| 6月15日 | 市民公開講座 (樋野興夫先生、大江健三郎先生、15時~17時 マリオス 大ホールにて 入場無料)                           |
|       | 新渡戸稲造記念 がん哲学外来<br>(アイーナにて 3組予約制 事前にお問い合わせください。<br>希望者多数の場合は、抽選とさせていただきます。) |
| 6月21日 | 新渡戸稲造祈念 メディカル・カフェ                                                          |
| 6月28日 | 柴田教授外来                                                                     |

